

九州女子大学附属折尾幼稚園 令和7年度 学校評価 (3.0 以上 A 2.0~2.9 B 1.9 以下 C)

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標及び評価結果							総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等
		基準	取り組み指標	取組結果	基準	成果指標	成果評価			
(幼児の健康な身体づくり) 伸び伸びと育ち合う子ども	幼児の年齢や発達に応じた関わりの中で、遊びを通して学び、生きる力の基礎を育む保育の展開。	4	生活や活動に見通しを持ち自ら行動し、自分なりの目標を持ち意欲的に取り組んでいることを認める	3. 3	4	進級・進学に期待を持ち、自分の力を発揮しながら自信を持って主体的に行動する。	3	A	「遊び」を通して友だちとの関りが増え、ルールがあることに気付けるようになった。自分の好きな遊びを見つけ、得意な活動をしながら毎日の登園を楽しみにしている姿がみられた。行事へもひたむきに取り組む姿が多くみられ、自分のやりたいことや与えられたことに向き合い、友だちや先生と楽しみながら参加してきた。また、互いの必要性を感じ、一体感が生まれたようだ。	
		3	「遊び」にはルールがあることを知り、考えたり、試したりする姿を見守る。		3	友だちと積極的に身体を動かす活動に取り組み、ルールを守って一緒に遊ぶ充実感を味わう。				
		2	友だち同士の関りを見守りながら必要に応じて援助する。		2	友だちとあそぶ中で気づいたことや発見したことを保育者や友だちと工夫しながらあそぶ。				
		1	すすんで外に出て遊ぶことを楽しみ、遊びの中で必要なやりとりを知らせる。		1	保育者や友だちと一緒に戸外で好きな遊びを見つけて、身体を動かすことを楽しむ。				
子どもの人権を尊重する保育	幼児を主体に、一人ひとりの育ちや家庭環境の考慮、丁寧な関りを持ち、保育や成長を仲間と共に語り合う。	4	友だちのいいところに気づいて、互いのことを尊重し合い、高めたりしている姿を認める。	2.9	4	友だちのことを励まし、認め合うことで、自分や相手のことを大切にし、思いやりを持って過ごす。	2.9	B	幼稚園に安心して登園できるよに関わり方を意識することで、友だちの良いところや、互いの思いに気付き、折り合いをつけるなど、集団生活の基礎である人間関係が出来上がっていく様子が伺えた。また、毎日の園生活において、必要な習慣を身につけ伸び伸びと活動し、出来る喜びや、達成感を味わいながら過ごしていた。	
		3	子どもたちの話しや思いを傾聴し、友だちとの関わりを深めるために、援助し見守る。		3	自分の気持ちや相手の気持ちに気づき、伸び伸びと自分を表現できるようになる。				
		2	一緒にあそぶ中で、気持ちに寄り添い共感し、子どもや保護者との信頼関係を築く。		2	自分や家族以外の存在に気が付いて、友だちや保育者に興味を持ち、関りを深める。				
		1	様々な思いを抱いて登園していることを意識し、子どもたちの気持ちや態度を受け入れ、認める。		1	安心して幼稚園に通う。				

安全で安心な園づくり	幼児の安全対応力を高め、生命の安全教育に取り組む。	3.6	4	安全に遊んでいる様子を見守りながら、必要に応じて援助をする。	4	自分たちで必要な道具や物を準備し、ケガをしないように遊ぶことができる。	3.2	A	安全やスムーズに生活ができるように考えて環境を整え、定期的に片づけ方や遊び方の確認をクラス全体で確認することで、自分たちで安全を意識して過ごせるようになっていた。素材遊びや戸外遊びを通して、自分たちで必要なものを準備し、遊ぶ姿がみられた。手先に集中しないと危険がともなうことや、片付けをしないと他者に迷惑がかかることに気付き、気を付けようとする姿や、友だち同士声を掛け合う姿が見られた。戸外遊びでは、小さいクラスの子に配慮する姿や、転んだり、ケガをした子を助けようとする姿も見られた。
			3	保育者や友だちと一緒に遊ぶ中で、約束やルールを決める。	3	安全に気を付けながら日常生活に道具を取り入れて遊べるようになる。			
			2	道具の正しい使い方や、保育室での安全な過ごし方、園庭での遊び方について知らせる。	2	好きな遊びをする中で玩具や道具の使い方を知る。			
			1	子どもたちの生活する環境を考え、整える。	1	幼稚園の道具や玩具に興味を持つ。			

【学校関係者評価委員会からの評価内容】

- ・ワードとなる「声掛け」「環境づくり」「一人ひとりを大切にする」から推察される目からの情報等々、先生方の様々な思いがまとめられていると感じました。
- ・保護者参加の行事では、子どもたちと過ごす中で互いにルールを決めていたのを見て、家では見られない姿を見ることが出来、幼稚園ではできているのだと思い、自分（親）の話し方を変えて言ってあげようと思いました。
- ・「人権」とは…をどういう風にかみ砕いて考えたらいいのだろうと考えてしまう。話を聞きながら尊重する、評価しないということが大切で受け止め、考えることかと思っていた。すごく素敵だなと思ったのは、大人がどうしたらいいのかと考えるのが浸透しているなと感じた。援助の必要な子についても、子どものせいにしないで、子どもに求めるのではなく大人の関りを変えているとのことで、一人ひとりを大切にするというところに繋がっていると思いました。
- ・お迎えの際に、数秒ですが立ち話で先生が話してくださったこと、何気に話してくださったことが、（自分で解決するようになり、たくましくなりましたよ）家にいると幼稚園の社会に出て見えないけれど、自分の中で解決できるようになったことを聞き、近くで見守ってくれていると感じた。
- ・安全についても、子どもたちと一緒に考える、発見することで大人と子供の素敵な関りとなり、人権のところにも繋がりますが、「ルールを伝える」ことを大人がどんな言い方で伝えるのか、相手を尊重する・相手に恥ずかしい思いをさせないよう大人側が、どれだけ考えられるかが大切なのだとおもう。
- ・小学校でも、あったか言葉やチクチク言葉などを広げて、価値づけていくことで自覚もできている。子どもとのかかわりの中で、接続の部分をきちんと伝える方法は先ほどの人権ともつながっていると思う。本日の内容を小学校に持ち帰り、共有したいと思う。

実施日令和8年1月27日